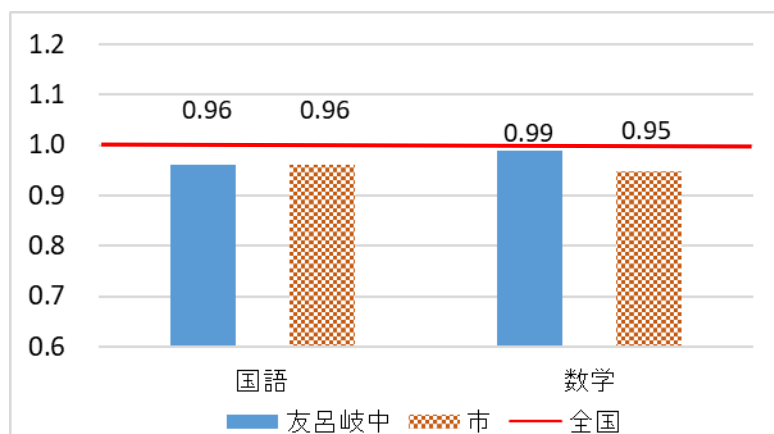


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

友呂岐中学校区 友呂岐中学校 第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

「話すこと・聞くこと」の領域で、「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」の問題については、全国平均を上回る結果であった。今後もディベートやグループディスカッションを取り入れ、自分の考えや意見をまとめて発表することや、人の意見を聞く学習活動を取り入れていく。

【数学】

「資料の活用」の領域で、全国平均を上回っており、特に「相対度数の必要性と意味の理解」については、全国平均を大きく上回る結果であった。今後も計算に関して、数多くの問題に触れ、解き方の理解を重点を深めることに重点を置いた指導を行っていく。

【質問紙調査】

「自分には、良いところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が増加している。これは、授業や行事毎の振り返りを行うことで、自己の成長を実感し、その後の目標設定を行い、前向きに取り組んだ結果だと考える。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合も増加している。今後も、オンライン学習サービスや学習支援ソフト等を活用して、家庭学習の習慣の定着に向けて指導していく。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区学力向上部会にて調査内容の分析を行い、成果と課題を明確化し、3校教職員全員で共有した。今後は、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしてまとめていく力や、場面の状況を捉え、得られた結果から判断する力を、教科を横断しながら育成することを継続していく。さらには3校で協働して委員会活動に取り組み、児童・生徒のキャリア育成を図っていく。

【学校】

校内で分析を行い、課題を明確化した上で、学習指導要領による学力3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の評価観点に応じた授業改善をしていく。また、タブレットパソコンを活用し、家庭学習の充実に取り組む。